



令和3年度

多北高 FRH 通信 第18号

令和4年1月27日(木)
多北高 FRH 推進委員会
探究推進部

第6回模擬国連東海大会 その2

模擬国連東海大会の参加者に、振り返りをしてもらいました。周りの東海地区他校の優秀な生徒たちに圧倒されながらも、なんとか自分たちの主張を取り入れてもらえるよう、頑張りました。本校からの参加者も、大いに刺激を受けてきました。

○参加生徒の感想

- ☆ 同じ東海地区の高校生であるのに、発言を積極的にする人、聞く人を魅了する話ができる人、先頭に立ちまとめることができる人などと、さまざまなリーダーシップを見せつけられました。模擬国連は知識を得られたということもありましたが、人間性や対話におけるコミュニケーション力を、より高めることができる場でした。東海のトップレベルの人と同じ土俵に立って活動ができて、よかったです。
- ☆ 初めて模擬国連に参加して、多北高よりもレベルが上の人達と接する良い機会になった。終始海陽学園のイラン大使やフランス大使に圧倒され悔しかったが、同い年でこんな人がいるのかと刺激されて、嬉しくもあった。学校の授業では身につけることができない、発言力、コミュニケーション能力、ディベート力が、彼らとの決定的な差であると感じた。社会人になるにあたって、こういった能力は強ければ強いほど良いので、磨いていきたいと強く思った。
- ☆ 正直 PPP も NP も準備して、交渉する内容もしっかりとまとめておいたので、結構活躍できるだろうと思っていた。しかし海陽学園や岐阜高校などの他の参加者たちは、既にワーキングペーパーを完成していたり、他国のこともしっかり調べていた。自分と那些人達とでは、明らかに事前準備の段階から模擬国連に対する覚悟が違った。ただ、とても良い経験にはなりました。この経験を次に活かして行きたいです。
- ☆ 死刑廃止国と存置国が譲歩しあって、一つの DR を作成できたことが印象に残りました。微妙なニュアンス（「要請」と「促す」など）の違いが、各国にとってとても重要な意味合いとなることも分かりました。宗教が関連せざるを得ない国もあり、世界レベルでの話し合いは難しい課題ばかりだと思いました。
- ☆ まず調査の段階から、他国のより信頼できる情報を得るのは難しかった。いろいろな人の論文を読むときに、日本人という視点ではなく担当国の国益を守るにはという視点で読むことで、新たな気づきや価値観の違いも感じられた。実際に話し合いをする中で、死刑廃止賛成の国の中にも立場の違いがあったり、反対の国の中にも治安の問題や宗教の問題など、さまざまな事情があり、それらをすり合わせていくのはとても難しかった。またそうすることで、現実の世界で起きている対立や複雑さを、身をもって体験することができた。模擬ではなく、実際の世界をより良くして行くためにはどうすべきだろうと、深く考えるきっかけになった。他校の人の知識や語彙の深さ、主体性、周りを巻き込む能力など、多くの部分で刺激を受けることができた。

☆ 初参加で、雰囲気なども全然わからずに当日を迎えてしまいましたが、自分にとってとても貴重な経験となりました。他校の生徒さんと関わる機会は今までなかったので、皆さんの積極性や行動力に刺激を受けました。私は事前のリサーチで「結構調べたな」と満足してしまっていたのですが、それ以上のことを他の大使の皆さんはしていて、自分の準備不足を実感したとともに、どのようなことを調べておけばよかったのかなど、学べることもたくさんありました。参加してとてもよかったと思います。また先輩だと思っていた人が、後から同い年や年下であることがわかった時の衝撃が大きかったです。それぐらい言動に責任感があり、しっかりしていました。しかもそんな人たちと、少しでも仲良くなれたので、嬉しかったです。初めて参加するときは、とても勇気があるとは思いますが、参加して絶対に損はしないと思うので、是非多くの多北高生に積極的に参加して欲しいです。

○大会の様子



出席確認のコール



合意形成に向けて交渉



Viet Nam 大使のスピーチ



WP 作成に向けて



敢闘賞受賞の Myanmar 大使



参加者全員の記念撮影